第７回北区男女共同参画審議会議事録

日　　時：平成２０年８月２７日（水）午後６時３０分～
場　　所：北とぴあ　７０１会議室

１　開　　会

２　審　　議
　（１）平成１９年度北区アゼリアプラン事業実績報告書（案）について
　（２）その他

３　閉　　会

出　席　者　　井上会長　鶴田副会長　山田委員　杉山委員　照井委員
　　眞庭委員　小池委員　宇野委員　池田委員　根木委員
　　佐藤委員　山口委員　長谷川委員　伊予部委員　依田委員
　　岡田男女共同参画推進課長
欠　席　者　　武石委員　荒木委員　磯委員　神戸委員　谷川委員

〈発言要旨〉

＜　審　議　＞

（1）平成１９年度北区アゼリアプラン事業実績報告書（案）について

○岡田課長

資料説明

○井上会長

今、事務局の方から説明があった。もう一度確認するが、今日の私たちの作業は何を具体的にすれば良いのか、教えて欲しい。

○岡田課長

こちらの報告書の掲載様式を今回から変えたが、こうした方向性でよろしいかどうかと、外部評価が幾つかあるので、そうした点で、もし疑問な点があれば、また、様式上こういったものをつけ加えた方がいいのではないかと、そういった意見をいただければと思っている。最終的な完成はもう少し、１,２ヶ月かけて１１月までには報告書を正式なものとして出したいと考えている。

○井上会長

今、説明があったように、今日の審議会は、１点目は内容についての質問とか、疑問な点が何かあったら意見をいただきたいということ、もう１点は、まとめてからの方向性と、新しい取り組みもしてきたということなので、それについての意見をいただきたいということである。今日の意見は、あと１,２ヶ月後の完成に向けての参考にさせていただきたいという、申し出である。以上の事務局の申し出を受け、報告書案について今から審議を進めていきたい。順番としては、内容的なものを押さえてから方向性について議論するということでよろしいか。

○岡田課長

はい、お願いしたい。

○井上会長

それでは、内容的にいろいろなものが詰まっているのでわかりにくい点も多々あるかと思うが、お気づきの点、ご質問、ご意見など、挙手をした上でお願いしたい。

○佐藤委員

ちょっと細かいところでお聞きしたいというか、意見を言いたいと思う。以前よりは、とても見やすくなったなと思った。ただ、できれば、後ろの方のその他の事業のところで、目標の幾つで、プランの幾つ、施策の方向の幾つという形で番号を振ってもらうと、もっとわかりやすいかなと思った。言葉では書いてあるのだが、ぱっと最初の方に戻って、アゼリアプランのどれにあたるのか見るときに、番号をふってあるとわかりやすいなと思った。

その他いろいろと思ったことに関しては、最後に、これからの課題ということでまとめてあったので、特に聞くことはないなと思ったが、気になったこととして、例えば、苦情解決委員会の中では、苦情にはならなかったが、相談の内容としては３件ほどあったということだが、その相談内容については記述されることはないのかなと思った。

それから、もう１点。報告者を見ていて気づいたのだが、内容についてコメントして、それをまた担当課の方に戻すという仕組みはあるのかどうかということを聞きたい。

○岡田課長

最初のアゼリアプランとの対照でわかりやすくするということについては、改善させていただきたいと思う。２点目、苦情解決の案件について、苦情解決委員会の中の合意事項として、諮問にいたらなかった案件については、件数のみの表示とするということで合意がされている。諮問案件は、内容を簡略に記載する形になるが、そこに至らないものは、それなりに門戸が広く、今回の３件については、公表しても問題はないが、さまざまな抑制効果のようなものが出てくるのではないかと思われる。

そういった中で、そうした諮問に至らない場合もありえるということもあって、件数のみの記載にとどめるということで、委員会の方で意見をいただいている。

３番目のフィードバックする仕組みについて、その内容等によるかと思うが、もう少し内容を知りたい、あるいは、この評価が少し甘いんじゃないかといった部分であれば、こちらからお話することは可能であると思っている。

○井上会長

その他、何かあるか。

○根木委員

細かいことを言っていくと、たくさん出てくるが、まず最初に、これを見たときに、本当によかったなと思った。報告書は、もう十何年もかけていろいろな姿に変わった。少なくとも、私が考えていた、こういう考え方で評価していったらいいのではないかというものには、かなり近づいてきたような気がするので、すごく評価できると思う。

ただ、細かいことで言うと、数字をただ載せるだけでなく、もうちょっと視覚的に、グラフを多くすると見やすいのかなという気もするが、紙面の関係もあるかと思うので、その辺は個別に改善してよりよくしていけば良いと思う。

統計などにあまり詳しくなくて、数字のとり方の基本的な考え方というのがよくわからないのだが、例えば、４０ページの保育園のところで、延長保育２５園と書いてあるが、保育園が全部で幾つあるのかなと、単純な疑問が出てくる。これを見やすくするには、保育園は全部で幾つあって、そのうち延長保育を実施しているのが２５園だとした方がいいと思う。

○岡田課長

おっしゃるとおりだと思う。どうしても区役所にいる関係で、自分たちの常識で説明してしまうところがあるので、なるだけ区民の方にもわかるような形でお示しするようにしたい。

○鶴田副会長

私も皆さんがおっしゃったように、何回かこの報告にかかわってきているが、今回とてもわかりやすく、頭に入るようにまとめていただいたなと思った。それで、６ページの１９年度進捗状況の概要についてだが、プランに沿って総括を書いた方が

いいのかなと思った。例えば、具体的に言えば、子育て支援施策はプランの何番でどうだったというふうに書いた方が鮮明になるかなと思った。今日は、この会場に早く着いたので、勝手なことをやってみた。何をやっていたかと言うと、このＡ、Ｂ、Ｃと評価が記載されているが、Ａは４点、Ｂを３点、Ｃを２点として点数化してみた。というのは、全体的にどのプランが進んだのかなと思い、自分でやってみた。そうすると、これはいろんな事情から進んでいないのはわかっているのだが、例えば、プラン１とプラン１３が断トツに低い。件数も少ないが、Ａも少ない。全体で見たときに、プラン１から１４でどこのところが推進になって、どこのところがまだ課題かなみたいな書き方にした方が、いいのかなと思った。でも、全体に、今後の評価のところとかも、大体、私は納得したというか、まず薄くなって読みやすくなった、と思う。

○岡田課長

先ほどもご意見いただいたが、プランとのかかわりが見づらいというのは確かにそのとおりだと思う。その辺は改善させていただきたいと思う。

○井上会長

せっかくなので、ご意見など今だったら間に合うということなので、何かないか。

○山田委員

全部細かく見ているわけではないが、報告書に関しては、特に課題というのがきちんと明確にされたことで、すごく見やすくなったなと思った。ご努力に感謝する。

○井上会長

他に、今のようなご感想でも何でも、何らかのご意見をいただければと思う。

○眞庭委員

皆さんがおっしゃっているように、大変見やすくなったと私も感じた。それで、私が、関わってきているところで、予算額がゼロのところと、きちんと書いてあるところがあるのが非常に気になる。これは、庁内で行っているので、予算が要らなかったのかと思うものもあるが、ＤＶなど、これからますます関わりが増えていくだろうと思うところの予算が、１９年度よりも減っているのはどういう関係かなと思う。例えば、３１ページのプラン１２・事業名２４７の「ＮＰＯとの連携」の項目は、１９・２０年度と予算が載っており、予算が減っているが、評価は両方ともＡになっている。その辺が少し気になる。

○岡田課長

事業名２４７の「ＮＰＯとの連携」の部分の予算額が減っている理由ということでよろしいか。

○眞庭委員

そうである。

○岡田課長

この金額だと、実はそれほど予算的に見ると差はないと思う。中身を精査した関係で、実績に応じて減ったのではないかと思う。数字の差がそれほど大きくなかったので確認しなかった。ヒアリングに同席した者がきちんと聞いており、臨床心理士の単価が変更になったとのことである。事業としては、予算額が縮小しているから

事業も縮小したということではないと思っている。

○眞庭委員

了解した。

○井上会長

いかがか。せっかくなので、池田委員、いかがか。何か一言でもないか。

○池田委員

私も、最初見たときに内容がわかりやすくなったので、あとグラフとか色とかが少しつけば、本当に立派なものになるんじゃないかと思う。他の普通の人が見たときに、非常に見やすいものになるんじゃないかなと思う。それで、先ほど岡田課長が言ったように、男女共同参画推進課は何をやっているところかが、区民によく見えるようになってくると、一番いいのだと思う。その努力も分野別の評価・集計というところに出ているので、もう少し下にこの区分けをどういうふうに、どういう意味でしたのか、ということが書いてあるが、もう少しその辺を膨らませていけたら、もっとおもしろくなってくるのかなと感じる。それと、私も２年ぐらいこの審議会にかかわっているが、この審議会の場だけでなく、区民の方々のさまざまな意見を集約する、市民参加型の仕組みを、これからのアゼリアの改定も含めて、つくっていけるかどうかというのは、非常に大事な側面かなと思っている。というのは、課題は山積みで、整理されてはいると思うが、それをどのようにこの地域社会の中で解決していくのかというところは、やっぱり、いろんな人の参加があって、初めて解決の道が見えてくるわけで、頭ごなしにこうだといっても、なかなか解決できるような課題ではないと思う。そこをどうやってつくっていくのかということを、この審議会でも考えなくてはいけないと思う。この講座の区分けのところをもう少し膨らませると良いと思う。また、どういうような地域社会の中で解決策を見出していくのか、そこをちょっと触れられた方がいいのかなと思った。

○岡田課長

報告書の冒頭の部分については、今アイデアが浮かばないので、今回この形にしているが、今、委員がおっしゃいましたとおり、男女共同参画を推進していくためには、やはり、さまざまな方との連携、各関係機関に限らず、区民の方との連携など、さまざまな方との連携が必要になってくる。その部分に関しては、今回、意識・意向調査を実施する際に、法人会や、町会・自治会の方々とお話する中で、我々の取り組みとして、今まで薄かったと痛感している。そうした意味も含めて、今、男女共同参画センターでは、地域スタッフという組織を持っているが、さまざまな形で区民の方々と連携していく必要があると認識している。その部分についても、何らかの形で打ち出せればと考えているが、今後の検討課題とさせていただきたい。

○井上会長

自然と、事業実績報告についての今後のあり方という２番目の方のご意見にも近づいたようなところがあるが、あえて２つにわけなくても、合わせた形でご意見をいただければと思う。他にないか。内容だけでなく、今後のあり方というところにも、内容的に膨らんできたような感じがするので、あわせて引き続きご意見のある方は

挙手をして欲しい。

○佐藤委員

これを読んで、アゼリアプラン推進の評価をつけるのが推進課だとしても、その情報を提供する相手方の他の部署の方々に、男女共同参画の視点で評価するということが、あまり浸透していないような気がする。例えば、報告書を見ると男女比を出していないところが見受けられるが、今後は、こういう調査が年１回、定期的に必ずあるので男女共同参画の視点での報告をするということを徹底して欲しい。多分、庁内で男女共同参画の連絡会を実施していると思うが、開催が年１回ということなので、年１回ではどのようなことを話すのかなと思う。もっと庁内でこのアゼリアプランについての認識を広げて欲しいと思う。

○岡田課長

庁内組織については、男女共同参画推進本部、あるいは幹事会というものがあるが、先日、意識・意向調査について推進本部を開いた。推進本部の組織は、各部長級の集まりで、そこで報告をし、承認を得たという形になる。この実績報告書についても、同様にこの後、推進本部を開催して、お示しする予定である。この評価内容等については、私どもが評価した段階で、１回各課にフィードバックしている。すべてについて、こういう形で評価したが、内容に、私どもの見方に間違いがないのかといったことも行っている。また、先ほども言ったが、今回のヒアリングを通じて、佐藤委員もおっしゃつたように、男女共同参画の視点での評価ということについてあまり認識がないところもあるので、どういった考え方で調べているかということをお話し、また足りない資料についは、作成をお願いした。このような取り組みを続けていくことで、時間はかかるが、男女共同参画の意識が浸透していくというふうに思っている。

○井上会長

私の方から質問したい。ほかの先生方も同じだと思うが、今、明治学院大学では、大学基準協会から認証評価を受けるために、大学の自己点検、自己評価を実施しており、大変である。それで、この報告書を見てみると、まさに自己点検そのものである。自己点検、自己評価で男女共同参画がどのくらい北区の行政の中で徹底しているかということを評価しているシステムだと思う。そうすると、多分、本当に大変な作業である。報告書を見ると、本当にわかりやすくなっていて、すばらしいがこの概要の６ページが、これだけでは本当に頼りない。始めに理念が来て、理念に対して具体的に何をして、長所と短所を挙げ、その改善点を挙げようというのを各項目で全部答えていくようになっている。そうすると、この概要は、これだけのことに対して、ボリュームが１０行というのはありえない。まず、理念によって語り、１９年度総括のよかった点と悪かった点、そして、それを改善するのにどういう時間軸でやるという、いつ何をやるというところまで出す。そこまで出して初めて自己点検をしたことになるという姿勢をださないと、せっかくここまでしたのにもったいないという気がしたが、そのあたりの考えはいかがか。

○岡田課長

先生のおっしゃるとおりだと思うが、この部分については、あえて簡略化した。と

いうのは、恐らく、区民の方々に見ていただく場合に、後半の方は、あまり見る気にならないというふうに思ったので…。

○井上会長

違う、この６ページの総括が１０行で、これはありえないと思う。１ページか２ページぐらいは絶対書けると思う。

○岡田課長

書こうと思えば書ける。

○井上会長

わかりやすくお願いしたい。

○岡田課長

それについては、ちょっと、取り組ませていただく。

○井上会長

提言というか、これだけはというのが何か欲しい。これをやって訴えるというものは、やっぱり大きいと思うので、ぜひお願いしたい。

○岡田課長

おっしゃるとおりだと思う。途中でスライドしたが、ここでぱっと見て、ここでつかんでいただけるかなという思いがあったので、あえて短くしたというのがあるが、その辺をきちんと書いた方がよりよいものになるというご意見だと思うので、改めて検討させていただきたい。

○小池委員

報告書の中身については、非常に複雑多岐になっており、まだよく飲み込めていないが、事務事業評価は、自分たちの事業について、各課で行っている。その他に、男女共同参画推進課が、男女共同参画の視点から、各課が行っているさまざまな施策・事業について評価してくださいとお願いして出た評価が、このＡ、Ｂ、Ｃ、Ｄという評価になっているのか。それとも、事務事業評価を男女共同参画推進課の方が、その視点で見てＡ、Ｂ、Ｃ、Ｄということで評価しているのか。そこのところの仕組みがよくわからないので、お聞かせください。

○岡田課長

１８年度は、各課の方で最初の段階で評価をお願いした。しかし、実際に男女共同参画の視点を持ちながら評価するというのは、非常に難しいと思われ、こちらの思っていることがうまく伝わらないところもあったので、１９年度、今年度に関しては、あえて私どもの方で評価した。しかし、本来はまず、各課で評価をしていただきたいという部分もあるので、このＡＢＣ評価がよろしいのか、という部分もある。先ほど申し上げたが、改めて評価システムとして、きちんと所管課でもチェックしやすいようなものをつくって、それで各課の自己評価をお願いするシステムがよいのではないかと、今、思っている。繰り返しになるが、１８年度の最初の評価は、各課で評価をしていただいた。それは、北区がやっている事務事業評価とは別の形で、別の角度で評価をお願いした。

○小池委員

１８年度報告の第１回目の評価が各課、２回目の評価は、男女共同参画推進課で行

った。１９年度報告は、男女共同参画推進課が評価した。この１年ごとに違ったスタイルで評価を行ったことで、メリット・デメリットをミックスさせながら、２０年度にどういったスタイルでやったほうがいいかを検討できないか。例えば報告書を作る上で、この分野については、各担当課が評価した方がいいだろうとか、特に男女共同参画を前進する上で必要となる事業については、トップダウンというのではないが、男女共同参画推進課がこういうふうにしなくてはいけないのではないか、といった意味を込めて、ＡＢＣのランク付けをするなどの検討をすべきではないか。また、少し所管の方の事業に重点を置いてもらった方がいいのではないか、というような事業については、所管の方の視点で評価してもらうといったような、うまい仕分けというのが１８年度・１９年度の中で少し出てきているのではないか。評価の傾向としてはどのようになっているか、聞かせて欲しい。

○岡田課長

１９年度の評価について、重点事業という形で選定した部分は、まさに委員のおっしゃったとおり、男女共同参画の視点から私どもが評価した方がいいのではないかという事業にあたるのではないかと思う。その他の事業については、男女共同参画という視点と少しはずれているのではないかという事業も多々ある。これは１５年度のプランをつくる最初段階で、さまざまな事業を網羅して、ピックアップする必要があったという事情があったと思うが、その後さまざまな環境の変化、社会状況の変化もあって、男女共同とは接点がないかなというようなものも混ざってきているというふうに思っている。そのようなことから、今回、その他の事業というふうにくくらせていただいたが、そちらの評価について、各課がその事業目的に沿って評価するのが良いのか、あるいは、私どもが男女共同参画の視点で見た方が良いのか。あるいはまた、ここを完全に評価からはずしてしまっても良いのか、そういった部分を含めて、２０年度が今回のプランの最後の評価となるので、そこの間、少し検討させていただきたいと思っている。

○小池委員

先ほど会長も言われたが、６ページの１０行足らずの総括、見解では、私が質問したようなことも含めて、この評価制度の作業の中身を、非常に薄めてしまうのではないか。プランの中の十幾つの中でご提示していることだけではなく、重点事業の中での評価も出ているので、そこら辺のところを少しうまく取りまとめながら、進んでいるところ、進んでいないところ、あるいは、中間的なところ、というようなことをかなり区分した形で、メリハリをつけたような形で、評価の具体的な成果の現状と今後の展望がはっきりできるような総括に書き方を変えた方がいいのかなと思った。

それから、「ワークライフバランスなどの未着手の分野」ということも出ているが、この未着手の分野への切り込みというか、着手してもらうためのヒントみたいなものが、この重点事業や選定事業のヒアリングを行った中でなかったのかなと思う。そのヒントというか成果をこの中に少し補足するというか、膨らませた形で、充実させた形で記述展開をしていただけるとありがたい。男女共同参画というのは本当に難しく、さまざまな人たちがお互いに理解し合いながら、少しずつ、進んでいく

というようなことなので、その仕組みのようなものが、各職場の中や、地域の皆さんとのかかわりの中で、どうなっていて、今なにが必要になっているのかというようなことのヒントもこの総括の中で盛り込んでもらうと、かなり評価化されたものになるのではないかという印象を受けた。検討をしていただきたい。

○岡田課長

概要部分に記載した中身については、実際には、後半の重点、選定事業の中で取り上げたものなので、そこにも課題や２０年度以降取り組めるものといったものが、記載されているが、ここだけで、ある程度、皆さんにわかっていただくという意味からも、少しこの部分を膨らませて改善させていただきたいと思っている、

○井上会長

いかがだろうか。なかなか詳しく一つ一つ見ていくということができないところもあると思うが、一応、まとめのところをお願いしたいというようなことで、他にご意見など、何かあるか。

○杉山委員

私は、２回目の出席であまり内容もよくわかっていないが、これは、大体、どなたが見るものなのか。

○井上会長

基本的な情報を少しご説明願いたい。

○岡田課長

実績報告については、この後、区民の方に公表ということで、図書館、地域振興室などには置かせていただくものである。わかりにくい部分も実際あると思うので、そういった点をご意見いただければと思う。

○杉山委員

私が、本当に普通に図書館に見に行ったときのことを考えると、これはどういう意味なのだろうと思うのは、例えば、１４ページのプラン３・プラン１３というように、固めて記載されているものがあるが、その辺の理由が知りたい。あと、四角の枠で囲まれた部分がすごく目立って、ほかの部分の文字が小さく見づらいと思った。

○岡田課長

その辺の説明が確かに欠けている。先ほども申し上げたが、評価をするにあたって、事業によっては、類似しており、まとめて評価した方がわかりやすいというものがあったため、その辺をまとめさせていただいたというものが、幾つかあるので、こういった表記になっている。いきなり見るとわかりづらいのでちょっと検討したい。

○照井委員

体裁の話とか、総合的なこととか、感じていたことが出尽くした感がある。細かい話になるが、気になったところがあるので、意見を述べたい。男女共同参画推進課の事業の中で、報告書の１５ページのプラン４０,４２のメディアリテラシーの育成に関するところで、コンピューターの講習ということになると思うが、１８年度にエクセルの初級講座というのが挙がっている。確かにＩＴ講習であるが、メディアリテラシーの観点からすると、そぐわないのではないかと思う。男女共同参画推進課という専門の部署でも、参加者が多そうなのでこれをやるというような形で事業が提供され

るのだったら、ちょっと残念だなと思う。１９年度は、女性のためのブログ講座ということで、メディアリテラシーという事業にそった内容になっていると思うので、非常に良いのではないかと思う。今後もそういった点についても考慮していただきたい。１８年度のエクセル講座でも、メディアリテラシーではなく、自立支援的な、コンピューターを覚えて仕事に役立てるというような参加者がきっと多かったのではないかと思うので、そういう項目を挙げるなどの検討をしていただきたい。

○岡田課長

委員がおっしゃったとおり、１８年度のこの評価はいかがなものかと思ったが、前年度の評価は基本的にいじらないという形で行った。ただ、１８年度当時メディアリテラシーというと、単にＩＴ技術を取得するというような段階であったのかなとも思う。本来のメディアリテラシーの意義から考えると、１８年度の事業は当たらないというふうに感じている。１９年度のブログ講座については、情報を読み解くという部分でかかわってくると考えているが、実際に、今求められているのは、７ページの総括の４の課題にも記載したが、インターネットによる情報が氾濫する中で、情報を読み解く力の向上を図ることだと思う。事業名４２の評価をこういう形で出させていただいたが、課題は多々あると認識している。

○山口委員

ぼんやりとした感想になるかもしれないが、各項目で課題が掲げられていて、なるほどと思って見ており、大変読みやすいなと思った。最後の方の部分で「実績報告書についての今後のあり方」についてまで分析しているが、男女共同参画推進課自身の総括した課題というか、意見がここに載っていないのは、どうなのかと思った。

○岡田課長

意見を記載するのか。

○山口委員

今後に向けての意見というか、総括というか、課題のまとめのことである。

○岡田課長

総括的に１ヶ所でまとまっていないとは思うが、個々の事業において、それぞれこういった部分は取り組む必要があるだろうというものは、あげさせていただいている。先ほどから、意見をいただいているが、総括の部分はちょっと薄いと思う。私どもが事業を進める上で、どういった点が不足して、どういった点が、まあまあとするのか、といった部分を含めて、総括の部分は少し書き直しが必要かなと思っている。書き直しという形で対応させていただきたい。

○山口委員

その総括の部分は、次のアゼリアプランの策定にも影響があるか、確認したい。

○岡田課長

今回の評価のあり方自体がアゼリアプランの改定にもかかわってくる。こうした事業の仕分けをしたのも、それなりの意味があるので、アゼリアプランも改定に向け、総括を書き直したい。また、アゼリアプランと一体的につくるといった今後の評価のあり方については、アゼリアプラン改定の際にも申し添えたい。

○井上会長

その件については、よろしくお願いしたい。結局、皆さんの意見をまとめると、そこに行き着く。皆さん、良くなったという感じは、一致して同じである。本当によくわかるようになった。それをまとめてどうなったか、それはどこに向かっていくのか、というところがわからないとせっかくの努力が伝わらないと思うので、ぜひよろしくお願いいたしたい。ということで、このアゼリアプラン事業実績報告書（案）の検討を終わらせていただきたい。

○根木委員

１つだけよろしいか。予算額を上げていただいているが、予算額の説明がない。例えば、講座を開いているのであれば、講師の謝礼が発生している等と推測できるが、何の数字を上げているのかわからないものもあるので、説明があったほうがいいのではないかと思う。例えば、１３ページにあるプラン２、事業名２２の事業などは、これは、講演会を行っているが、予算はゼロになっているので、これはほかの予算を使ったからという判断をしたのかなというように思える。実際に予算を上げている場合には、こういうふうな場合を予算額として別途計上しているという説明があるといいのかなと思う。予算ゼロだと何もしていないように見えてしまい、良くないと思うので、予算の数字の扱いは、説明をするなど、特別に何か発生して、通常のその課の業務以外に予算を立てた場合には、それに関しては説明が必要だと思う。また、講演会だったら、参加者が何人あったかを必ず載せるなどのやり方があると思う。予算の数字の扱い方もそうだが、もう少し工夫したほうが良い。

○岡田課長

委員がおっしゃったとおり、１３ページの年金関係の講座は、他の講座に絡めて実施したということで、予算自体ここでの予算という形では載せていない。予算そのものが事業単位のくくりになっているので、その中から講演事業、この講座のような形で使っている関係で、これを分割して載せるというのは技術的に難しい。それぞれに講師謝礼もあるし、消耗品費もある。では、それはどこについているものなのかというと、厳密には分けられない。そこまで細かく分けるというのは、作業が膨大になってしまい、無理である。実態をつかむには、事業単位でもいいのではないか、という判断からこの数字にとどめている。例えば、この上にある事業名１９の条例制定記念講演などは、ストレートにこの予算そのものである。１８年度は４３万円あって、１９年度は１００万円、２０年度には、条例制定記念講演を予定していないということである。これは本当に１対１で対応するが、必ずしもそういった対応でないものもあるので、載せるのが非常に難しかった部分である。ただ、予算額自体の説明がどこにもないというのは事実なので、こういった数字を載せているのだということは、冒頭の方でも説明、「記し書き」で載せさせていただきたい。

○佐藤委員

最後に、ちょっと言わせていただきたい。この報告書を読んでいて、いろいろ疑問に思ったことは、最後のこの「事業の実績報告についての今後のあり方」というところに答えが出ていたような気がする。ここに載っていることを、しっかりやっていただきたい。また、今回の評価は、評価の仕方を各所管に依頼したのではなく、男女共

同参画推進課が評価したということなので、とても良かったなと思う。今までの評価だと評価といえるのかなというようなところも多かったので、今回の評価方法は、良かったなと思った。

それから、その他の事業について、果たしてこれが必要あるのか、ないのかという話があったが、逆に男女共同参画の視点というのは、どこの分野でも必要であると思う。でも、そこが欠けてしまっているところもあるので、その他の事業についても、男女共同参画の視点からどんなふうにやっているか、と問いかけるだけでも意味があると思うので、大変だと思うがその部分を追っていただければありがたい。

○岡田課長

評価の部分については、そういったお言葉をいただいているが、本来的には、評価は所管でやるべきだろうと思っている。ただ、そのための評価基準がないと、ただ評価しろ、といっても、これはもう各課ばらばらなものになってしまうと思うので、私どもの役割としては、まずそれをつくりあげて、各課に提示するということが先にあるべきだろうと考えている。ただ、その上の第１次評価については、私ども男女共同参画推進課が我々の視点できちんと評価していくものと考えている。

○井上会長

一応、いろんなご意見を賜ったということで、一つの区切りにして良いか。

（は　い）

○井上会長

繰り返しになるが、いろいろなご意見をいただいた上で、改善に努めていただきたい。事務局から報告があったらお願いしたい。

○岡田課長

ご審議ありがとうございました。ただいまの意見を反映した形で完成に向けて作業を進めていきたいと思う。その他、２点ご報告、お諮りいたしたい。１点目だが、平成２１年度のアゼリアプラン重点事業について、昨年度の審議会の中でも新たに定めるというよりも、２０年度重点項目として挙げた項目に取り組んでいく形というような意見があったと聞いている。私どもとしては、２０年度重点事業として挙げているこちらの事業が、必ずしも２０年度単年度で完結したわけではなく、２１年度以降、特にワークライフバランス、あるいは配偶者からの暴力防止、女性の再就職支援などについては、少し取り組みを強めていきたいと考えている。そこで、２１年度も引き続き、この２０年度のアゼリアプラン重点事業について、これを引っ張っていくという形ではいかがかなと考えている。その辺について、審議会の方でご意見をいただければと考えている。１点目はその件についてである。

○井上会長

２点あるそうだが、１点目は、今出た２１年度の重点事業についてということで、事務局の方としては、２０年度の重点事業をそのまま引き移して行っていくという案が提案されました。これに対して、ご意見があったら、お願いいたしたい。１６ページのプラン７のところで、１８年度Aが、１９年度Dということで、これはぱっと目につく。これは、ワークライフバランスの何であったか。

○岡田課長

今日、所長もそちらにいらっしゃるが、きちっとした連携がとれていない状況であるが、今年度、２０年度は、ワークライフバランスの講演会をまず切り口として予定している。これをきっかけとして、関係機関と連携をして、２１年度またさらなる運営をしたいと今考えている。

○井上会長

重点事業は、この２０年度も引き続きということで了承願えるか。

（異議なし）

○井上会長

それでは、第１点目はご了承願えたということで、次をお願いしたい。

○岡田課長

それでは、もう１点。これは、ご報告になる。資料３として、今日お配りした意識・意向調査実施結果一覧をご覧いただきたい。１枚のものである。男女共同参画に関する意識・意向調査については、７月に実施した。この回収状況についてのものである。ここで回収率と挙げているのは、有効回収率のことで、中には無効の回答があったので、それを除いた回収率を挙げさせていただいている。一般区民向け調査についてだが、回収率は最終的には、４４.８％である。申し訳ない。ここには男女比が載っていないが、男性３８.２％、女性４９.２％の回収率となっている。報告書自体が現在取りまとめの最中ということで、報告書が出る前のお話ということになるので、ちょっと要点だけをここでかいつまんで申し上げさせていただきたい。年代別についての回答数だが、６０歳代からの回答が一番多くなっている。この全体の回収率だが、４４.８％という数字については、平成１９年度同様の方式で調査を行った区が４区ある。こちらの平均が４０.７％なので、それに比べると高いものとなった。しかし、人口に対する標本数ということでは、実際にこの数字が妥当なのかどうか、この辺は少ないのではないかという意見はあるかと思うし、山田委員の方からもご意見をいただいていたと思うので、次回実施する場合については、そちらの標本数についても、区で行っている他の調査もあるので、そちらを勘案しながら、検討する必要があると考えている。また、企業向けの調査については、法人会のご協力を得て、実施したが、回収率４４.２％であった。同様の調査を行った足立区では、２７.４％、新宿区では３２.９％であったので、これはかなり上回ったと思っている。なお、町会・自治会については、７８.４％、公立中学校については、９２.９％となっている。回答の内容については、現在クロス集計等を行っているので、出てこない部分もあるが、一般の区民については、特徴的なこととして、例えば男は仕事、女は家庭という考え方についてどう思うかということについては、４９％の方がそうは思わないというような回答をいただいている。これは、内閣府の調査よりも、大分上回っている。要するに、男女の区分けをしていないというような数字になっている。

○井上会長

前回と比べてどうか。

○岡田課長

前回が平成２年の調査で、あまりにも期間が空いている。申し訳ないが、記録がない。審議会が次期のものと２期にわたってしまうが、そちらで、もしできれば、報告させていただきたい。家庭における男女の役割については、５２％の方が男女とも仕事をして、家事・育児を分担するという考え方が自分の考え方に近いというような回答をしている。また、仕事と生活の調和という部分については、４９．８％、約半数の方が仕事と私生活をバランスよく両立させる考え方が近いという回答をしている。また、男女共同参画に関して、区に望む政策として、最も多かったのが、保育サービスなど子育て支援の充実という部分である。その他、４０％を超えていたのが、介護サービスの充実、多様な働き方への取り組みといったところである。なお、残念な数字として、アゼリプラン、男女共同参画条例、男女共同参画センターの認知度については、８割の方が知らないという回答になっていて、周知の必要性というのを改めて感じているところである。

○井上会長

知っているのは２割。

○山田委員

回答していない人はもっと知らないだろうから、多分もうちょっと低いと思う。

○池田委員

人口からするとすごい数である。

○山田委員

でも、１割が知っていればいいのではないか。

○岡田課長

続いて、企業についてだが、これはワークライフバランスへの関心について、これは、６０．９％が関心があると回答している。ここでも、企業として必要な取り組みは何かと問いかけたところ、やはり保育園等、社会環境の整備、これを挙げる方が４７．８％ということになっている。育児休業については、男性取得者が、今回、回答いただいた中ではゼロという状況であった。町会・自治会については、実は回答者の８５％の方が６０歳代以上の方になっている。これは役員の方が高い年齢の方が多いということを表している。こちらでは、条例認知度については、６８．９％の方が知っているというような回答をいただいている。私どもが、町会・自治会にいろいろチラシを配ったりしている関係で、町会・自治会の役員の方でも知っていただいているのではないかと思っている。先ほどと比較して数字が高かったので報告した。役員全体について男性がやはり５３．９％という形になっているが、ほぼ拮抗している。ただ、会長、副会長については、ちょっとこの辺のクロス集計の関係で今は数字が出ていないが、名簿を見る限りではやはり男性が多いかなというところだと思う。

中学校については、リーダーにふさわしいのは男女どちらでも構わないといった回答が８４．２％を占めている。全体にやはり年代が若くなるにつれ、男女共同参画という意識は進んでいるのだなというのが全体から割り返した感想である。

ただ、男女共同参画という言葉は、実際には中学３年の公民で学習する。２年生の段階では７５．３％の子が知らないといった回答になっている。少しかいつまんで、特徴的な数字が出たところだけ申し上げた。

報告書については、９月末をめどに取りまとめて、アゼリアプラン改定に向けた基礎資料として提示、審議会にご報告させていただくとともに、第１回審議委員の皆様にも報告させていただきたいと考えている。

○井上会長

いろいろ事務局から説明をしていただいた。この意向調査について、何かご意見・ご質問があるか。

○山口委員

２日ぐらい前だと思うが、国だか、どこかの新聞社だか、やはり同じような意識調査をしたのをテレビで見たが、そういう点もチェックしたらおもしろいかなと思った。

○岡田課長

ちょうど私の手元にある読売新聞に意向に関する調査というものが掲載されておりまして、山田先生がコメントを述べられている。さまざまな調査があるが、今回は作成過程に入っているものなので、内閣府で行った調査と類似の設問がある場合には、なるべくそれを載せるようにという方向で進めさせていただいている。

○井上会長

それでは、その他はよろしいか。

○池田委員

男女共同参画に対する取り組みについて、８０％の人が知らないというのが本当だと思うが、確かに行政とか区役所に行くのは税金とか住民票とか、子どもが生まれたときとか、それぐらいのものなので、男女共同参画課に行くというのは、まず、関係者以外は本当にないのだと思う。逆に、だから男女共同参画課が、本当に市民の前に登場する場をつくった方がいいと思う。それには、一番簡単なのは、杉山さんがさっき言っていたが、普通の人が出てくるのは保育園とか幼稚園とか子どもができたときには、一番参加の機会があるので、小学校とか入学式とか、そういった場で男女共同参画に関する資料を一緒に配布して、例えばＤＶの問題など特に密接に絡まっているので、こういうことを区でやっていますよという広報のチラシ１枚入っていると、それだけで教育的な効果があるのではないかと思う。まず、知ってもらわないとそういうことを行っているということが頭に入ってこないので、現実的にはいろんなことでお世話になっているのだが、そういうことが意識的に行われているということが頭の中に入ってこないと思うので、そういう場をぜひつくったらいいのではないかなと思った。

○岡田課長

委員がおっしゃいますとおり、８割が男女共同参画センターを知らないという状況で、ここで待っていても、恐らく広がらないだろうと思っている。今回、この意識意向調査をするにあたっても、町会等に説明に伺わせていただいたが、まず聞かれるのは、男女共同参画推進課というのは一体何をやっているところなのですか、ということで会長さんからもそういったお話を何回かいただいた。そういったことからも痛感しているが、私どもの方から出ていって、出前講座なり、ＰＲなり、ここで待つのではなく、アウトリーチという形で外に出て行く必要があるだろうと思っているので、２１年度にはそういった取り組みをさらに強めていきたいと思っている。

○井上会長

ありがとうございました。一応、よろしいだろうか。

（は　い）

○井上会長

以上で、本日の議題は終わったが、他に何かあるか。全体を通してでも、何かご質問、ご意見があるか。

○山田委員

北区に関することで、私の記事が出たので、男女共同参画に関係ないこともないので、一つ意見を述べさせていただきたい。会長、資料の配付と意見の発言ということを許していただけるか。

○井上会長

内容は。

○山田委員

内容は介護の問題である。資料の数がそれほどないので全員分あるかどうか。議員の方はもちろんご存じだと思うが、配ってしまってよろしいか。まだ、会長の許可を得ていないが、よろしいか。

○井上会長

今、意向調査のご意見を伺ってそれが終了した。一番最後にこちらで示したのは、全体、最後に特に何かあったらご意見を、ということである。何かあったらというのは、男女共同参画についてのご意見ということであるので、どうか。よろしいか。私は、山田先生が学識経験者で、とてもすぐれたご意見をおっしゃると思うが、受けてよろしいか。私にその権限があるか。

○山田委員

会長に権限がある。

○井上会長

私はご意見として受けようと思う。

○山田委員

ありがとうございます。

○井上会長

それでは、お願いする。

○山田委員

意見を述べる機会をいただき、ありがとうございます。かいつまんで言えば、北区に関する記事が出たが、あまりいい記事がでなかったということである。男女共同参画にも関連していると思うが、北区は介護認定が非常に厳しいというような実態があって、それが雑誌の中に出て、私が専門委員ということだが、私、北区に生まれ育って５０年間ずっと住んでいて非常に恥ずかしかった。男女共同参画の視点からも、介護労働者が女性であったり、家の中で介護をしているのが女性であったりすることも多い中、ワークライフバランスの推進の中で、介護事業の推進というものを主に挙げている。私の父親は、介護認定を受けていないが８０歳なので、こういう状況がある

と、北区で介護を受けさせていいのだろうかと、ついつい思ってしまう。引っ越した方がいいのではないかというような意識ももってしまうので、北区だけが突出して介護の認定度が低いという状況は、男女共同参画の視点から見ても望ましくないのではと思ったので、意見を述べた。議員の方はもちろんご存知だろうが、議会でも追及されたのだが、ちゃんと適正に行っていると、役所なので絶対そういうふうに答弁するしかない。でも、実際こういう記事・数値が出てしまうと、まさに北区は介護にやさしくないといった認識が広まってしまったので、ここで意見として、こういうことがないようにという意見があったということを議事録に残していただきたいと思う。よろしいか。

○依田委員

所管ではないが、北区の職員としてということで、お答えというか、意見を発言させていただく。正直なところ、介護保険というのは、非常に課題が多いと思うが、北区としても、国の指導に従って介護保険の充実に非常に尽くしているところである。男女共同参画推進の中で介護の充実ということが挙がっていたということなので、北区としては、介護保険の充実に努めており、それなりの言い分があるということを言っておきたい。

○井上会長

それでは、今、山田委員の方から、この記事をめぐって男女共同参画の視点からの介護の充実を北区でお願いしたいというご意見も、議事録に記載させていただく。それに対して北区の方からは、鋭意努めているという説明、その両方を載せる形で議事録に残したいと思う。以上をもちまして本日の議題を終わりたいと思うがよろしいか。

（は　い）